



せきかわ

関川村立関川小学校 学校だより 令和3年度 4号

教育目標

ゆたかな心
たくましい体
すすんで学ぶ
関川の子

夏休みと海水浴

校長 須貝 学



～ ホタルの生態調査活動（4年生）～

子どもたちは、夏休みになったら何をして過ごすのでしょうか。また、海と山のどちらへ行きたいですかと聞かれたら、子どもたちはどちらを選ぶのでしょうか。

夏の風物詩の海水浴は、自分が小学校の頃は、夏休みの大きな楽しみの一つでした。自分の周りの友達の誰もが、必ず行くような夏の定番行事でした。それ故、小学校の頃であれば、自分は海に行きたいと答えるでしょう。

そんな海水浴の思い出に、地区の夏休み行事として集落のみんなで出掛けていた、集団海水浴があります。当時、まだ羽越線を走っていた蒸気機関車に乗り、集落で客車の一車両を貸し切って、坂町駅から間島駅まで行きました。トンネルでは汽車の煙が車両に入ってきて煙かったのを思い出します。間島駅で降りると、駅から夏の炎天下を歩いて野潟海水浴場まで歩きました。

野潟の海は、家の近くの海にはない岩場の海水浴場で、磯にはカニやヤドカリ、珍しい魚介類がたくさんいて、時間を忘れて夢中で生き物採集をして過ごしていました。低学年だった自分に、近所の高学年のお兄さんが、深場に潜って大きなヒトデを

捕って、喜ばせてくれました。お昼になると大人たちが海で捕ってきた“い貝”の味噌汁をおかずに、みんなでおにぎりを食べました。今ではあまり行われなくなったスイカ割りもみんなでやりました。ほぼ丸一日海で過ごすので、帰る頃はくたくたに疲れていて、間島駅までの帰り道は、かなり辛い歩きでした。そして、岩場の海水浴場なので、帰る頃には必ず足のどこかを切っていて、その傷と日焼けした肌が痛くて、その日の夜の入浴が辛かったことも思い出されます。

先日、海水浴に行く人が、減少傾向にあるという新聞の記事を見ました。日焼けが体に良くないとか、砂や塩で体がべたべたするなど、さまざまな理由があるようです。一方で、海水に含まれるマグネシウムは、肌の保湿効果を高め、湿疹など皮膚の病気や乾燥肌などの改善や美肌効果も期待できるそうです。

新型コロナウイルス禍で迎える2度目の夏休み。まだまだ活動やイベントが制限される中ですが、子どもたちには、せめて身近にある豊かな自然を全身で感じられるような体験をして欲しいと願います。



< 関川村下川口 >